

ワンポイント事例

3 読むことがうまくできない



学校生活の様子

Sさんは、作文を書くことはできるのですが、音読をするとき、文字や行をとばして読んだり、どこを読んでいるのか分からなくなってしまったりすることがあります。そのため、本読みが嫌いになり、国語の時間は、いつも表情が暗くなります。

実態把握

文字を目で追うことや言葉をまとまりとしてとらえることが苦手である。
注意力に欠けるところがある。

文字の形を正しく捕らえたり、文字と音を結び付けることが不十分である。
語彙が少ない。

少しの間でも聞いたことを覚えておくことがうまくできない。
文の構造がうまく理解できない。

考えられる支援の手立て

◇補助具（読む部分だけが見えるようにする用紙、定規等）を使ったり、文字を指で押さえたりして読むようにさせる。
◇行間を広げたり、文字を拡大したりしたプリントを使う。



◇読み間違いの文字と似ている文字との形の違いに気付かせる。
◇読み間違い部分に印を付けて、意識させる。
◇フラッシュカードで読み間違いの文字やキーワードを提示して語彙を増やす。
◇挿絵、写真、実物などで、文字の意味をイメージ化する。

◇教師が、ポイントを強調した範読をし、大切なところを押さえる。
◇大切なところにラインを引いたり、色を付けたりして強調する。
◇短い区切りごとに意味を確かめながら全体を読み進めていく。

その他の支援のポイント

- 家庭の協力を得て、事前に家庭学習の中で音読する箇所を練習し、自信をもって授業に参加できるようにする。
- 「読む力」は、「聞く力」、「話す力」などとも相互に関連していることがあるため、総合的な実態把握を行い、「聞く力」、「話す力」などに関する支援も行う。
- 全体的に文をまとまりとしてとらえながら読むことができるようになった場合も、促音、拗音の読みに課題が残ることが多いため、確実に定着するまで繰り返し支援する。



【個別的な支援の方法】

- 身近な生活の中にある促音、拗音を含む言葉（「がっこう」、「きょうしつ」など）を使って、促音、拗音の学習をする。
- カードなどを使い、音を視覚的にとらえさせるようにする。
例：「がっこう」→●●●● 「きょうしつ」→●●●●●● 「きゅうきゅうしや」→●●●●●●●●
- 文字単位ではなく、文字を含んだ単語として覚えさせる。 例：「きよ」→「きょうしつ」